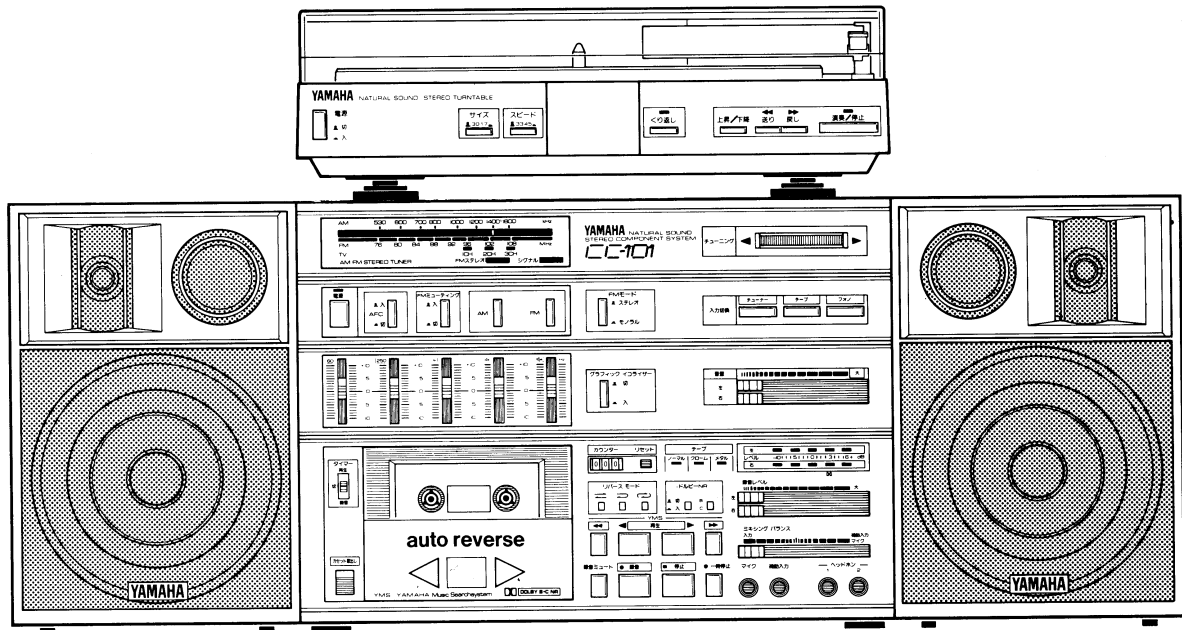




NATURAL SOUND  
STEREO COMPONENT SYSTEM

# CC-101

取扱説明書・保証書



ご使用前に必ずお読みください。

本書には、最終ページに保証書が添付されていますので、所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

このたびは、ヤマハ・ステレオコンポーネントシステムCC-101をお買い求め  
いただきましてまことにありがとうございます。

CC-101の優れた性能を充分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただ  
くために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願い  
いたします。

## ■目次

特長	1	テープ再生のしかた	14
ご使用になる前に次のことにご注意ください	2	ミキシングのしかた	16
組み立てかた	3	録音のしかた	17
接続図	5	カセットテープについて	20
接続のしかた	6	お手入れのしかた	21
電源について	7	参考仕様	22
各部の名称と機能	8	故障と思われるときには	23
レコード演奏のしかた	11	サービスのご依頼について	24
放送の受信のしかた	13		

## ■特長

### <CC-101C>

#### ●録再オートリバース機構搭載

オートリバース機構によりカセットテープを裏返し操作することなく、演奏・録音がボタンを軽く触れるだけで操作できます。

#### ●リバースモードセレクター搭載

用途に応じて、マニュアルリバース(片道)・オートリバース(往復)およびオートリバースリピート(連続)の3ポジション選択ができるリバースモードセレクターを装備しています。

#### ●YMS(自動頭出し演奏機構)を内蔵

ミュージックテープにおさめられている曲の始めの部分を見つけ出し、自動的に曲の始めから演奏する便利な機構です。

#### ●5分割グラフィックイコライザー採用

分割周波数は、60Hz・250Hz・1kHz・4kHzおよび16kHzの5バンド分割で音質のコントロールを自由に楽しむことができます。また、独立したイコライザースイッチにより、ワンタッチでイコライザーツマミの位置に関係なく、フラットな周波数特性にすることもできます。

#### ●ドルビーB/C NRシステム内蔵

ドルビーBタイプの他に、テープヒスノイズを強力にカットするドルビーCタイプのノイズリダクションシステムを内蔵しております。

#### ●オートテープセレクター機能

カセットテープのエクストラホールを検出し、テープを装着するだけでテープモード(バイアス・イコライザー・テープ感度)を自動的に切り換えるオートテープセレクター機能を内蔵しています。

#### ●2種類のミキシング機能

マイクミキシングだけでなく、ポーターサウンドなどのキーボードも同時ミキシングできるミキシング機能を内蔵しています。

#### ●FMワイドバンド

FM受信周波数76~108MHzにより、テレビ(1~3チャンネル)の音声を受信できます。

#### ●15W+15W(AC時)のビッグパワー

専用ICを採用したパワーアンプは15W+15W(AC時)のビッグなパワーを低歪率でしほり出します。

#### ●テープコピーが可能なREC OUT端子付

#### ●3電源対応設計

家庭用電源(AC100V)の他に、乾電池(別売)・カーバッテリー(別売のカーバッテリーコード使用)の3電源のいずれかを使用することができます。

### <CC-101S>

#### ●木製キャビネットの2ウェイスピーカーシステム

音質を追求した木製キャビネットを採用し、12cm・3cmのバスレフ方式2ウェイスピーカーです。

### <CC-101P>

#### ●リニアトラッキング方式のフルオートプレーヤー

レコード原盤を作るカッティングマシンと同じ方式のリニアトラッキング方式を採用していますので、原音により近い音を再生します。

#### ●シンクロ録音機能搭載

CC-101Cと専用コードで接続することにより、シンクロ録音機能が働き、CC-101Cを録音状態にすればプレーヤーの操作で録音スタート・ストップが自動的に連動してくれます。

# ご使用になる前に次のことにご注意ください



## 設置場所について

次のような場所で長時間ご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)または、温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)では製品の機能を維持できない場合がありますので教えてください。
- 湿度の多い場所(湿度90%以上)では金属部品にサビが生じることがあります。
- ホコリの多い場所ではスイッチ、針先、レコード等がよれ、接触不良や雑音の発生等の原因になり性能をそこなうことになります。
- 結露が発生した場合、一時的に正常動作をしないことがあります。
- その他、振動の多い場所や磁気の強い場所(テレビやモーター)の近くには置かないでください。針とび、雑音の発生等の原因になります。



## セットのお手入れには

セットをベンジン、シンナー系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、すぐそばでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。ベンジンやシンナー類がつくと、キャビネットが汚れたり変色したりします。

お手入れには、必ず柔らかい布でからぶきするようにしてください。



## 取り扱いはいねいに

物をぶつけたり、落としたりの乱暴な取り扱いは製品に悪い影響を与え、性能を劣化させます。ていねいにお取り扱いください。



## 電源電圧

電灯線電源(AC100V)でご使用になるときは、必ず付属の電源コードをお使いください。

また、カーバッテリーでご使用になるときは必ず別売のカーバッテリーコードをお使いください。



## 電源コードは大切に

コードの断線やショートを防ぐため電源コードのプラグをコンセントから抜くときは、コードを引っばらないで必ずプラグを持って抜いてください。

また、本機の電源端子側で抜くことは絶対にしないでください。



## 水に濡れたら

万一雨が降ったり、花びんなどの水をセットにこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。この状態で電気を入れた場合、感電の恐れもあり危険です。

また故障の原因となりますのでご注意ください。



## 液もれに注意

長時間ご使用にならないときは、液もれを防ぐため乾電池を電池ケースから出してください。



## 落雷に注意

落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。



## ケースを開けない

キャビネットを開けて内部に手などを入れますと故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



## カセットテープの保管は

テープがたるまないようにストッパーをつけるか、別販のカセットケースに入れ、直射日光、湿気、高温および磁気のあるところには置かないでください。

高温や湿気はテープをいため、磁気は録音した音を消してしまいます。また、テープ面には直接指先などを触れないようにしてください。



## FMアンテナ

良質なFM放送をお楽しみいただくために、FM専用アンテナをご使用ください。



## プレーヤーの設置

スピーカーをレコードプレーヤーと同じ台や棚の上、または近くには設置するとハウリング(音の悪循環)を起こすことがありますのでご注意ください。



## 磁気に注意

スピーカーには強力なマグネットがついていますので、テレビ・時計・カセットテープなどを近くには置かないでください。



## 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんが、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。



## もう一度調べてください

故障かなと思ったら、まず23ページの「故障と思われるときには」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



## 保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

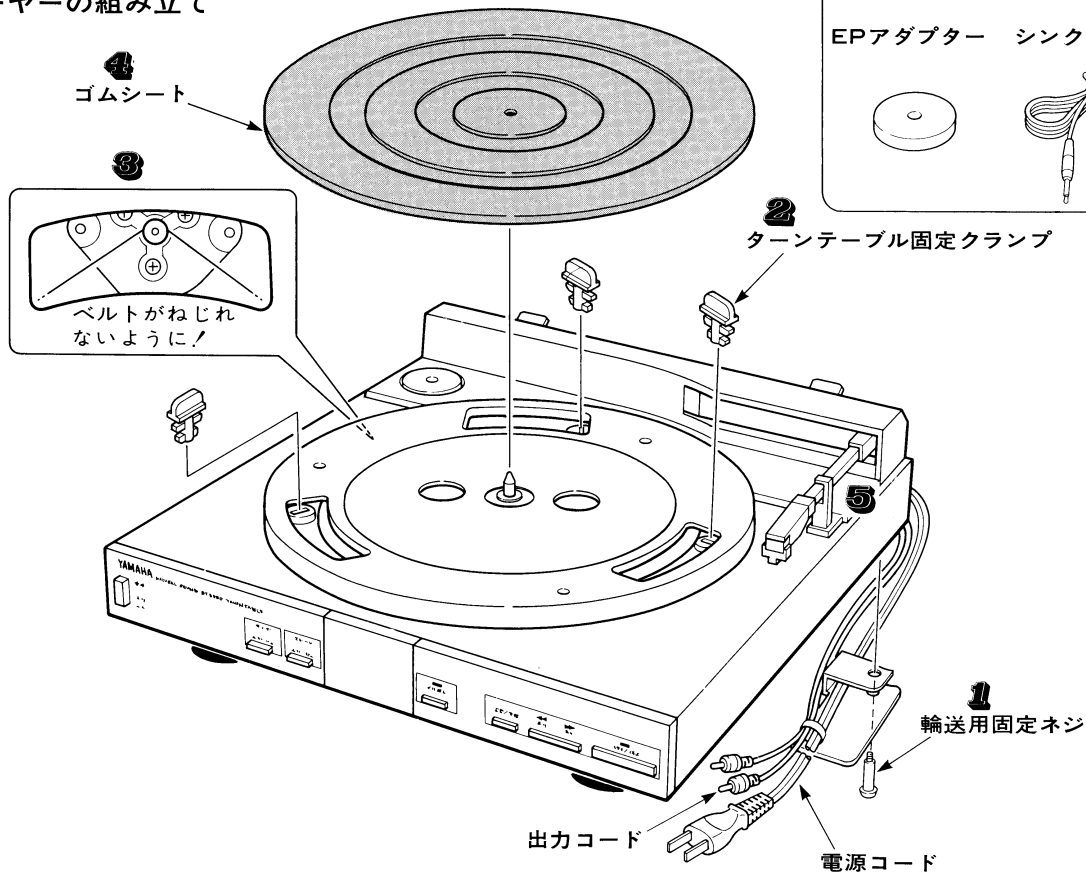
### 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# 組み立てかた

※組み立ての前に電源プラグがコンセントから抜けていることを確認してください。

## ■プレーヤーの組み立て

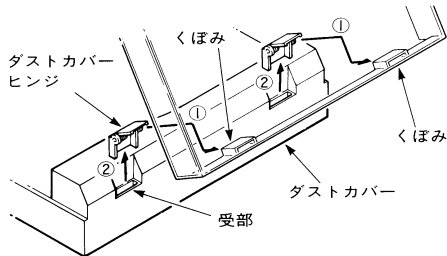


付属品  
付属品を確認してください。

EPアダプター シンクロ出力コード

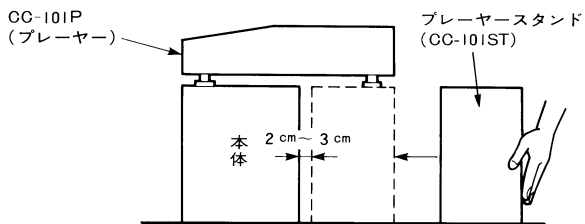
### ダストカバーの脱着

- ダストカバーは、脱着可能です。  
取りはずす場合は次のように行ってください。
- 1.ダストカバーを図のように引き抜いてください。
  - 2.次にキャビネット後面左右の受部からダストカバーヒンジを引き抜きます。
  - 3.取り付けの場合は、逆に行なってください。



### プレーヤー用スタンドの使用

- スタンドの使用は、図のように本体から2 cm～3 cm離して設置してください。



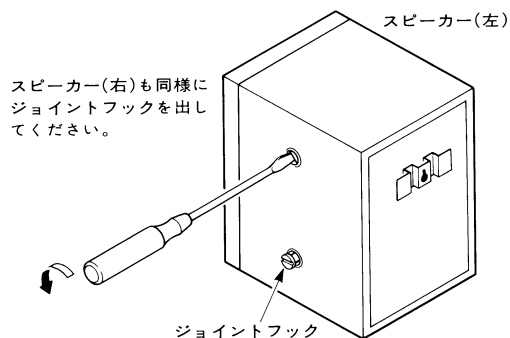
※プレーヤーを設置するためのスタンド以外には使用しないでください。  
(例…椅子の代わりには使用しないでください)

- 1 プレーヤーの底面にある輸送用固定ネジ(青色)1本をはずします。
- 2 ダストカバーをあけて、ターンテーブルを固定しているクランプ3本をはずします。
- 3 ターンテーブルに巻きついているベルトをモータープリーにかけます。

- 4 ターンテーブルの上にゴムシートをのせます。
- 5 トーンアームを固定しているビニールタイをはずします。
- ネジをはずすときは⊕ドライバーを使います。
- 固定ネジと固定クランプは、転居等で再び輸送するときに必要ですので、なくさないように保管しておいてください。

## ■スピーカーシステム(CC-101S)の取り付け

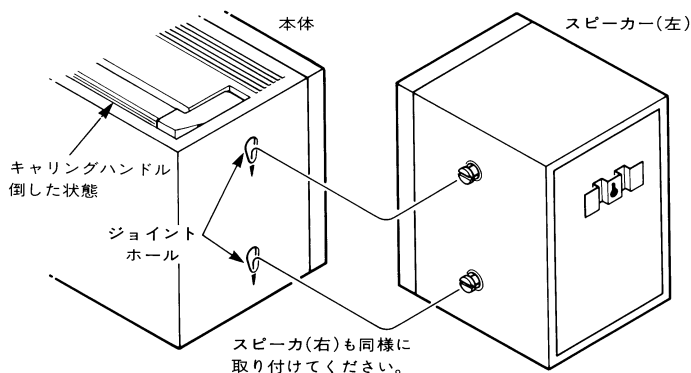
- ①スピーカーシステムのサイド側にあるジョイントフックを  
図の様に反時計方向Qに回し上下のジョイントフックを出  
してください。



- ②スピーカーシステムのジョイントフックを本体のサイド側  
にある2個のジョイントホールに取り付けてください。  
取り付けの際は、本体のキャリングハンドルを倒した状態  
にしてください。

持ち上げた状態では、取り付けできません。

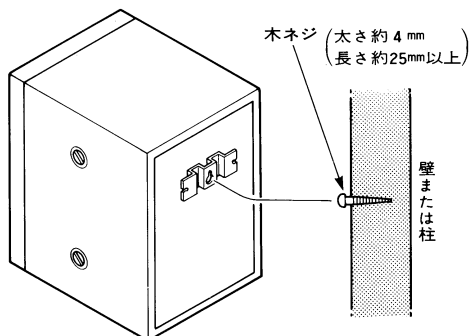
また、スピーカーを取り付けた状態でキャリングハンドル  
を持ち上げるとロックした状態になりますのでスピーカ  
ーは取りはずしできなくなります。



### ●スピーカーを壁にかけて使う場合

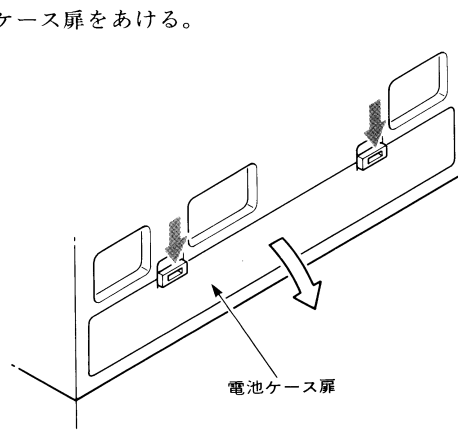
スピーカーの後面に壁かけ金具が付いていますので、壁に  
かけて使用することもできます。

しっかりした壁、または柱に木ネジ(太さ約4mm、長さ25  
mm以上)を取り付け、それにかけてください。

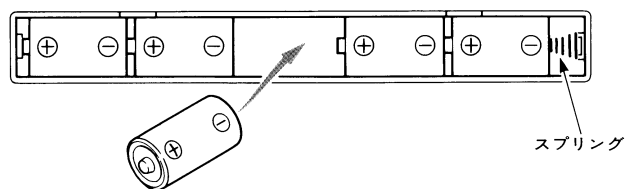


## ■乾電池の入れかた

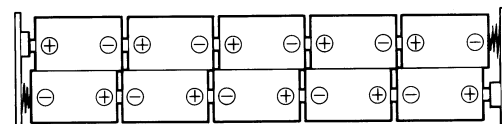
- ①電池ケース扉をあける。



- ②単一型(SUM-1)乾電池10個を入れる。

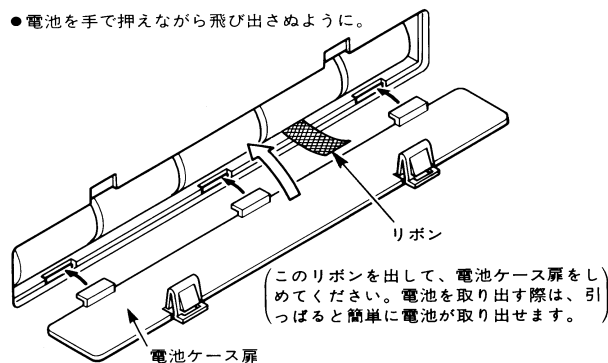


●電池の方向をまちがわないように。



- ③電池ケース扉をしめる。

●電池を手で押えながら飛び出さぬように。

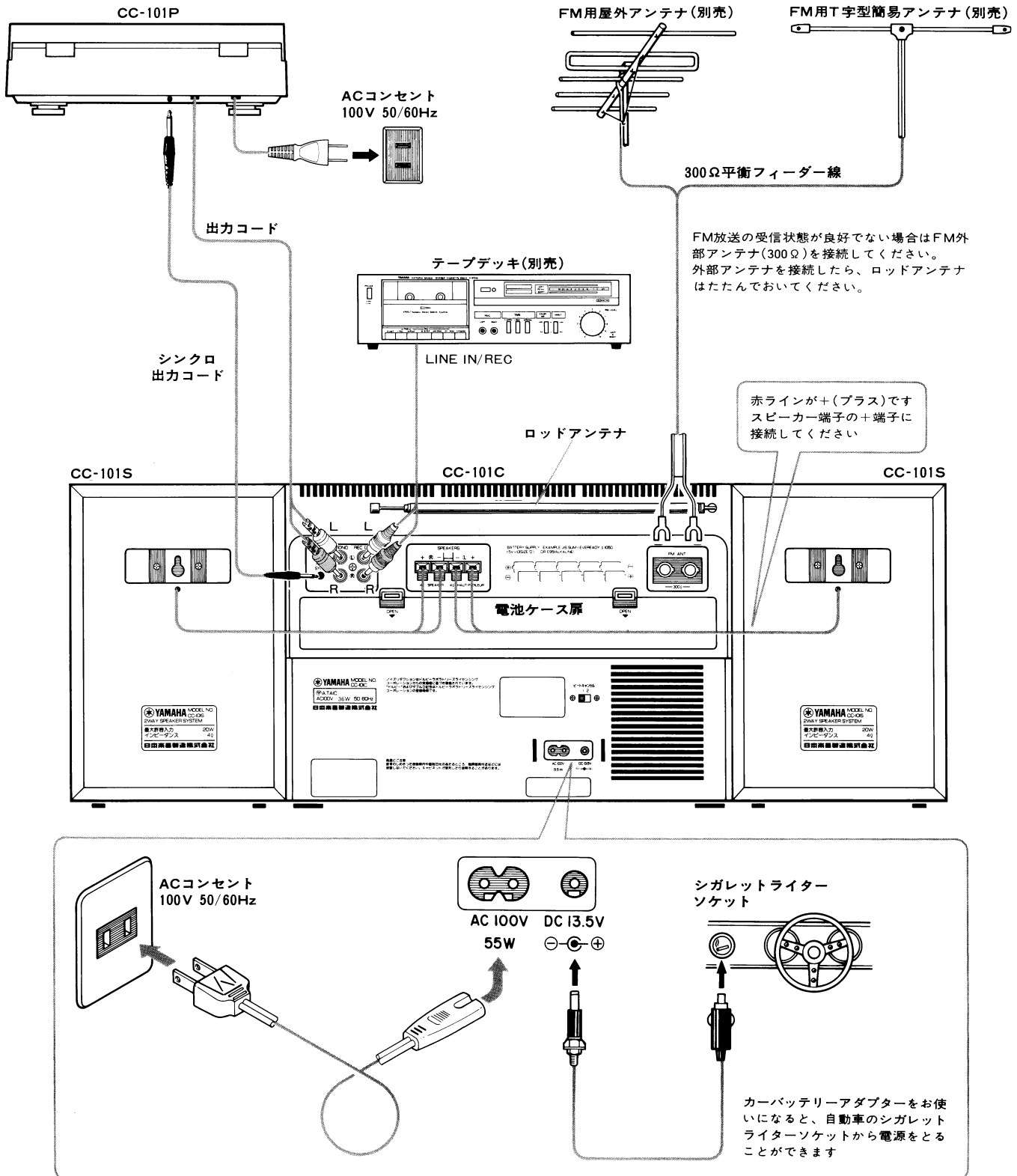


### 注意

- スピーカーを取り付ける際に、薄いベニア板の壁や柔らかい壁などには取り付けないでください。木ネジが抜けてスピーカー本体の落下によるけがやスピーカーの破損の原因になります。
- くぎなどの抜けやすいものは使用しないでください。長時間の使用や振動で抜けることがあります。

# 接続図

●すべての接続が終わるまで電源は入れないでください。



# 接続のしかた

## ■アンテナの接続

### <FM>

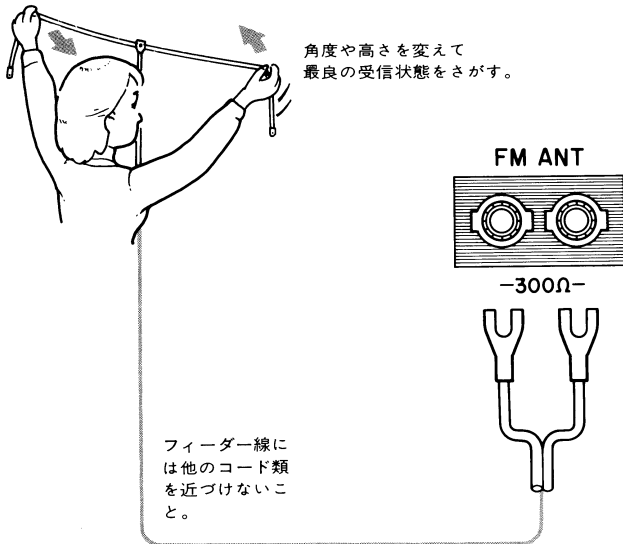
ロッドアンテナを伸ばし、最もよく聞こえる方向、長さ、角度に調整します。

屋内でご使用になるとき、FM局の電波が弱い場合や、交通量が多くて自動車の点火雑音の入りやすい所、高層ビルによる電波障害が気になる所などで、ロッドアンテナだけでは十分に受信できない場合には、市販のFM外部アンテナ(300Ω)を本体の後面のFM外部アンテナ端子(FM・ANT)に接続してください。

外部アンテナを接続したらロッドアンテナはたただんておいてください。

※ロッドアンテナを伸ばしたままでポータブルコンポを持ち運びしないでください。アンテナを破損することがあります。

### 接続例

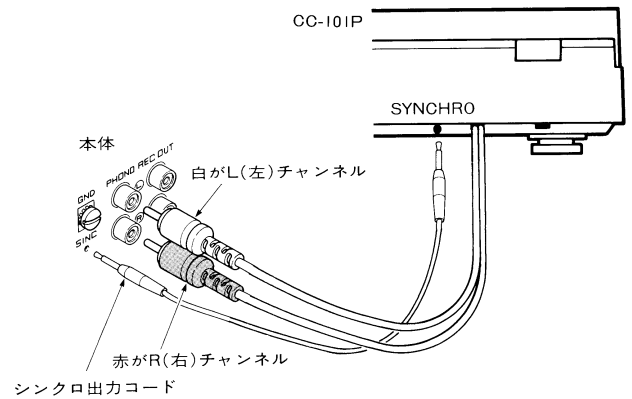


### <AM>

内蔵のフェライトバーアンテナが動きますのでロッドアンテナはたただんておきます。内蔵アンテナには指向性がありますので、セットの向きを変えてみて、最もよく聞こえる方向を探してください。

## ■レコードプレーヤーの接続

CC-101P(レコードプレーヤー)の出力コード⑤(L)白色、⑥(R)赤色を確認してプレーヤー端子(PHONO)に接続し、シンクロ出力コードをシンクロ端子(SYNCHRO)に接続してください。



## ■録音補助端子への接続

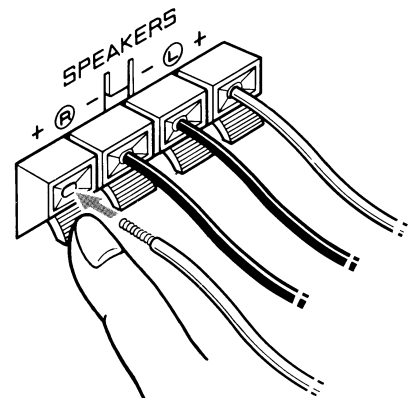
テープデッキがある場合、テープデッキの録音入力(LINE IN)端子とこの端子を③、④を確認して接続してください。テープのダビングや、テープとのミキシング録音などができます。

## ■スピーカーシステムの接続

接続図を参考にして、向かって右側のスピーカーシステムのコードをスピーカー端子のⓇ端子に、左側のスピーカーシステムのコードをⓁ端子に、それぞれ極性(+、-)を確認し接続してください。

まちがえて接続すると、ステレオ感のない不自然な音になります。

●接続方法は、図のように端子の穴の下のレバーを押しながら、スピーカーコードの芯線部分を差し込み、レバーをはなすとコードはしっかりとロックされます。



### 13 イコライザーツマミ

音色・音場などを補正するためのイコライザーツマミです。  
 “0”ポジションでフラット。+ (ブースト)側で+12dB (4倍)、- (カット)側で-12dB (1/4)の可変幅を持っています。  
 60Hz・250Hz・1kHz・4kHz・16kHzの各周波数(バンド)を別々にコントロールできますので、細かい調整が加えられ、音色のつくり変えや、ハウリング、ノイズなどの不要成分の除去にも有効的です。

バンド	ブースト時の効果(+側)	カット時の効果(-側)
60Hz	音楽の成分としては少ないが、力強さやスケール感が出てくるブーストし過ぎると音が濁った感じになる。	音がクリアでハグレよくなるがカットし過ぎるとスケールの小さな音になる。
250Hz	音が厚くなるが、同時に音質が無機的、電話的になる。	音のハグレがよくなるが、カットし過ぎると音が薄くなる。音質が電話的な場合はカットした方がよい。
1kHz	すべての楽器の音質が空かんを叩いたような感じになる。ブーストし過ぎると聴き手を疲れさせる原因になる。	中高域が強過ぎて空かんを叩いたような感じの時、この帯域をカットすると音色に落ちつきが出る。
4kHz	全体に前に出て来たような感じになり、音量感も上がる。ブーストし過ぎると“m”“b”“V”の発音が不明瞭になる。	全体に音が気薄で不明瞭な感じになる。ボーカルがうるさい時にもカットすると効果がある。
16kHz	楽器音域を越えた倍音領域が強調され、音の輝きとアタック感が増す。ブーストし過ぎると全体にノイズっぽくなる。	音質のノイズっぽさを消すのに効果がある。カットし過ぎるとシンバル系の音がナベを叩いたようになる。

### 14 カセット取出しボタン

テープが停止状態のときに、このボタンを押すとカセットホルダーが開きます。

### 15 タイマースイッチ

別売のタイマーを用いると、目覚まし再生や留守録音ができます。

再生……目覚まし再生をするとき。

録音……留守録音をするとき。

※タイマーを使わないときは必ず“切”にしておきます。

また、タイマー録音/再生のテープ走行方向は電源OFF時の際のテープ走行方向で復帰します。

特にタイマー録音の際は、注意してください。

### 16 カセットホルダー

カセットテープを入れます。

### 17 リバースモードスイッチ

リバースモードを選択します。

リバースモードスイッチの詳しい操作のしかたにつきましては、14ページを参照してください。

### 18 カウンター/リセットボタン

カウンターでテープの走行量を表示します。リセットボタンを押すと、カウンターは“0 0 0”に戻ります。

### 19 カセット操作ボタン

◀……………テープを“◀”方向に巻き戻すときに押します。またテープを再生しているときにこのボタンを押すと、YMS(自動頭出し)状態になります。

◁再生▷……………テープの再生方向を決めるボタンです。このボタンを押すと、ボタン上のインジケータが点灯してテープの走行方向を表示します。

▶……………テープを“▶”方向に早送りするときに押します。またテープを再生しているときにこのボタンを押すと、YMS(自動頭出し)状態になります。

録音ミュート…録音中にこのボタンを押すと、押している間だけ無録音部分ができます。

録音……………録音するときに、このボタンと“再生”ボタンを同時に押します。録音状態になりますとボタン上のインジケータが点灯します。


■停止……………録音、再生、早送り、巻き戻しを停止させるときに押します。

一時停止……………録音時・再生時のテープ走行を一時的にとめるときに押します。このとき、ボタン上のインジケータが点灯します。もう一度押すとインジケータが消えテープが再び走行します。

### 20 ドルビーNRスイッチ

左のスイッチでドルビーシステムのON(■入)、OFF(■切)をし、右のスイッチでドルビーのBタイプ(■)とCタイプ(■)を切り換えます。

なお、ドルビーBで録音したテープはドルビーBで再生し、Cで録音したテープはCで再生します。その他のテープでは“■切”にしてください。

※DOLBY NRと  マークはドルビー研究所の登録商標です。ノイズリダクションシステムはドルビー研究所より実施許諾されています。

### 21 テープインジケータ

カセットホルダーにカセットテープをセットすると、自動的にテープの種類が検出され、表示されます。

※カセットテープが装着されていないとき、電源を入れますと、メタルポジションが点灯します。

※20ページのカセットハーフの構造を参照してください。

### 22 マイクジャック

マイクロホンを接続するジャックです。

マイクロホンを使用しないときは、マイクロホンのプラグを抜いておいてください。

### 23 補助入力ジャック

ポータサウンドなどのキーボードを接続するジャックです。使用しないときは、プラグを抜いておいてください。

### 24 ヘッドホン1・2ジャック

ステレオヘッドホン接続するジャックです。ヘッドホン接続するとスピーカーからは音は出ません。録音モニターや、夜間などに音楽を楽しむ場合に便利です。

### 25 ミキシングバランスツマミ

入力切換ボタンで選んだ入力とマイク・補助入力のミキシングバランスを調整するツマミです。

このツマミを左一杯“入力”側にセットしますと、入力の音だけになります。

ミキシングしない場合は、この状態にしておいてください。右へスライドさせるほど、入力の音が小さくなり、マイク・補助入力の音が大きくなります。

※マイク・補助入力は同時に接続してモノラルでミキシングすることができます。

### 26 録音レベルツマミ

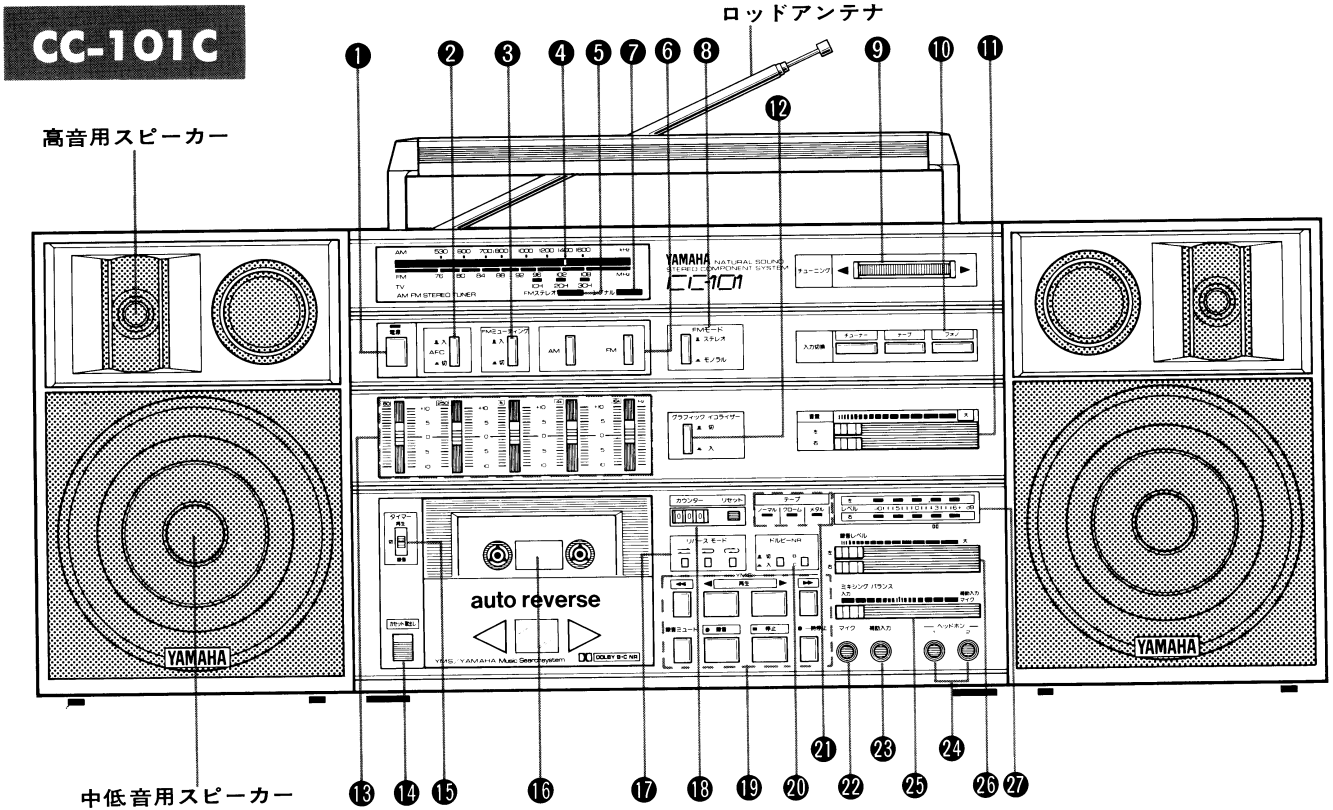
レベルインジケータ②7を見ながら左右の録音レベルを調整します。上のツマミが左(L)、下のツマミが右(R)です。

### 27 レベルインジケータ

録音のときは録音レベルを、再生のときはスピーカー出力レベルを表示します。



# 各部の名称と機能



## 〔CC-101C〕

### ①電源スイッチ

このボタンを押すと電源が入り、ボタン上のインジケーターが点灯します。もう一度押すと、電源が切れます。またこのインジケーターは、乾電池の消耗およびバッテリー不足になりますと、点滅して電圧不足であることを警告してくれます。

### ②AFCスイッチ

FM放送を選局する際に受信したい放送局までダイヤル指針を持ってゆき受信を受けこのボタンを「■入」にしますと、AFC(Automatic Frequency Control)回路が働き、その後の受信がずれないように保持してくれます。なお、受信したい放送局以外の放送局が近くにあったり、雑音源の近くの受信の場合は、このボタンを「■切」にしてください。

### ③FMミュートスイッチ

このボタンを「■入」にしますと、ミュート回路が働いて、FM放送選局の際に発生する放送局間の「ザー」というノイズをカットします。しかし受信電波が弱い場合には、このボタンを「■切」にして選局してください。

※AM受信の場合は、常にミュート動作しています。

### ④ダイヤル指針

チューニングつまみ⑨を回すと目盛り板上を移動します。この指針を希望する放送局の周波数に合わせます。

### ⑤FMステレオインジケーター

FM放送を受信の際、放送がステレオ放送の場合には、自動的にこのインジケーターが点灯し、モノラルになると消えます。

※AM放送受信時には、点灯しません。

### ⑥バンドセクター

受信するバンドを選択するボタンです。

- ・AM：AM(中波)放送を受信するときに押します。
- ・FM：FM放送やテレビ音声(1~3ch)、ワイヤレスマイクを受信するときに押します。

### ⑦シグナルインジケーター

放送局を受信するとこのインジケーターが点灯します。

### ⑧FMモードセクター

FM放送を受信の際、ステレオ受信とモノラル受信の切り換えをします。

### ⑨チューニングつまみ

放送局を選局するつまみです。

### ⑩入力切換セクター

入力(チューナー・テープ・フォノ)を選択するボタンです。

### ⑪音量つまみ

スピーカーとヘッドホンの音量を調節するつまみです。上のつまみが左(L)、下のつまみが右(R)になっていますので、左右の音量バランスを調節することもできます。

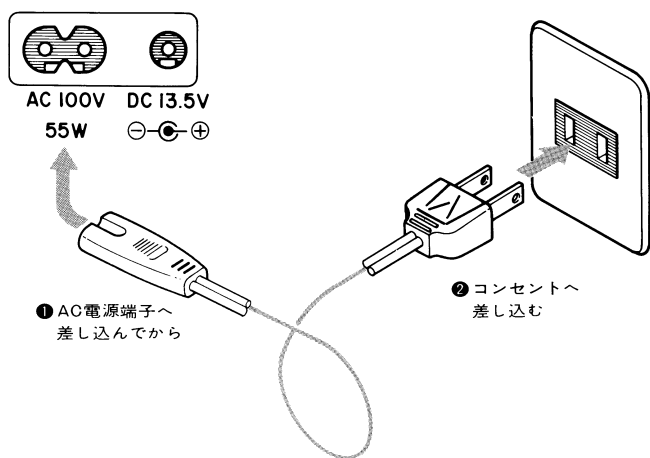
### ⑫グラフィックイコライザースイッチ

イコライザーつまみ⑬で音色・音場を補正などするときは、このスイッチを「■入」にします。「■切」にしますと、イコライザーつまみの位置と関係なくフラットな特性になります。

# 電源について

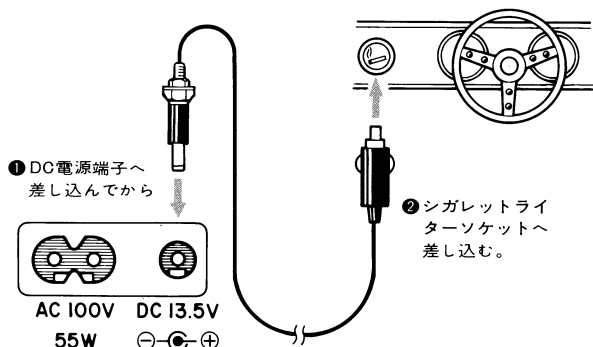
## ■AC電源使用

- CC-101C後面のAC電源端子に付属の電源コードを接続します。  
電源コードをAC電源端子に接続しますと、乾電池が入っていても自動的にAC電源に切り換わります。  
DC電源(乾電池・カーバッテリー)に切り換える場合は、電源コードをACコンセントからプラグをはずしてから、本体側のプラグを抜いてください。  
本体側にプラグが差し込んだ状態のままでは、DC電源には切り換りません。



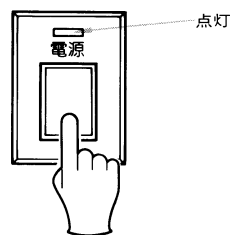
## ■カーバッテリー(12~15V)使用

- 市販のカーバッテリーコードをお使いになると自動車のシガレットライターソケットから電源をとることができます。カーバッテリーコードを本機側に差し込むと、乾電池が入っていても自動的にカーバッテリー電源に切り換わります。  
※本機のDC電源端子のセンターピンは⊕極性です。メーカーにより極性が異なる場合がありますのでご注意ください。

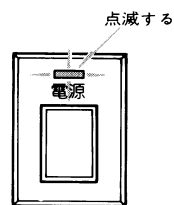


## ■DC電源(乾電池・カーバッテリー)のチェック

- ①電源スイッチを押します。  
ボタン上のインジケータは点灯します。  
この状態であれば良好です。



- ②インジケータが点滅するときは乾電池が古くなったか、カーバッテリーの電圧が低い場合です。



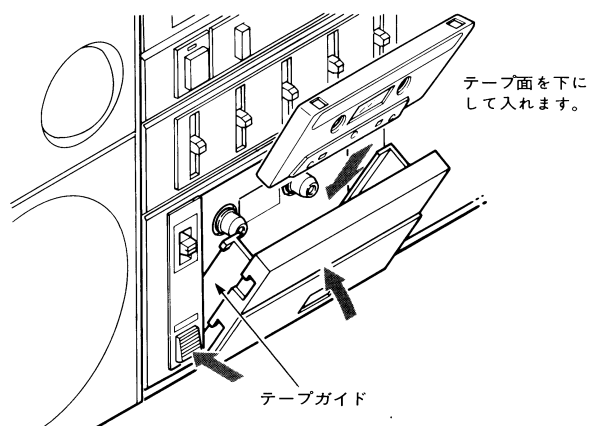
この場合は、ラジオは聞けても、録音や再生ができない。YMS(自動頭出し)が正常に動作しないなどが起こることがあります。  
ただちに、新しい乾電池と交換する、もしくはAC電源をご使用ください。

## ■乾電池取り扱い上のご注意

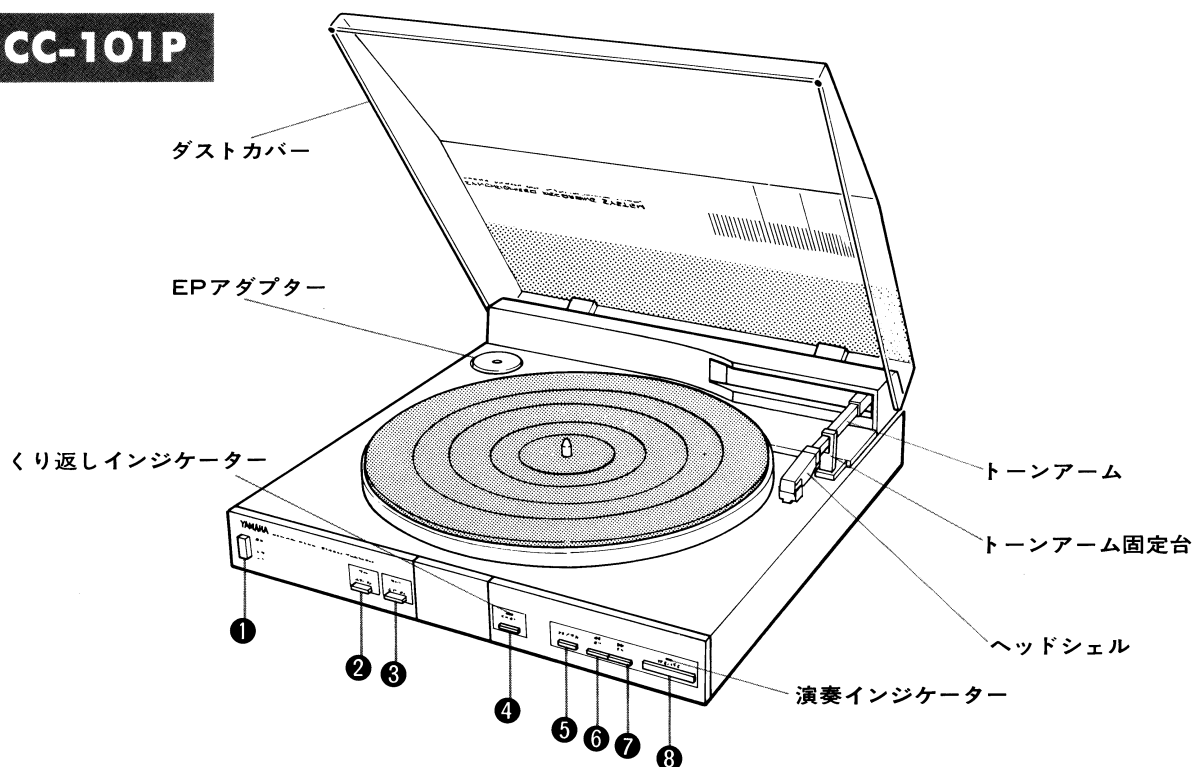
- 乾電池を誤って使用すると液もれや破裂するなどの危険がありますので、次の点について特にご注意ください。
- 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを本機の表示通り正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがありますから種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 長い間乾電池を入れたまま使わずに放置すると、“液もれ”することがあります。

### ■カセットテープの入れかた

- ①カセット取出しボタンを押し、カセットホルダーを開きます。
- ②カセットテープのテープ面を下にしてホルダー内側のテープガイドにそって入れます。  
本機はオートリバース(録音・再生)方式ですので、テープのA面、B面は再生ボタンで選びます。
- ③カセットホルダー上部中央を軽く押すとロック音がし、テープがセットされます。
- ④カセットテープを取り出すときは、カセット取出しボタンを押しホルダーを開いて取り出します。
- ⑤テープ演奏を使用しないときはホルダーを閉めておきましょう。



## CC-101P



### 〔CC-101P〕

- ①電源スイッチ  
押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。
- ②サイズ切換ボタン  
レコードの大きさ(30cmLP、17cmEP)に合わせて切り換えます。
- ③スピード切換ボタン  
レコードの回転数(33 $\frac{1}{3}$ rpm、45rpm)に合わせて切り換えます。
- ④くり返しボタン  
レコードをくり返して演奏するときにこのボタンを押します。くり返し状態になりますとボタン上のインジケータが点灯します。
- ⑤上昇／下降ボタン  
レコード演奏を一時的に止めるときに押します。もう一度押すと演奏を始めます。
- ⑥送りボタン  
トーンアームをレコードの内周(曲を進める方向)へ進めるときに押します。
- ⑦戻しボタン  
トーンアームをレコードの外周(始めの曲の方向)へ戻すときに押します。
- ⑧演奏／停止ボタン  
レコードの演奏を始めるときに押します。演奏を途中で中止するときにも使います。

# レコード演奏のしかた

## プレーヤー操作上の注意

- トーンアームを手で動かしたり、止めたりしないでください。操作ボタンを押して動かします。
- トーンアームが固定されているとき、演奏/停止ボタンや送り◀◀ボタンを押さないでください。
- このプレーヤーシステムを長時間使用しますと、表面の温度があがってあたたかく感じられますが、故障ではありません。
- レコードをのせていなかったり、レコードサイズの切換えをまちがえたままで演奏/停止ボタンを押したときは、すぐに演奏/停止ボタンをもう一度押すか、戻し▶▶ボタンを押し続けてトーンアームを固定台に戻してください。

## レコード演奏のしかた

- 番号順に操作します。

**1** 電源スイッチを押し、電源を入れます。

**2** ゴムシートの上に聞きたいレコードをのせます。EPレコード(ドーナツ盤)は、付属のEPアダプターをターンテーブル軸へ差し込んでください。

レコードを演奏する前に、カートリッジの針カバーをはずします。

**3** レコードの回転数/サイズに合わせてスピード切換ボタンとサイズ切換ボタンをセットします。

**4** 電源スイッチを押し、電源を入れます。

**5** フォノボタンを押します。

**6** 演奏/停止ボタンを押します。押すと演奏インジケーターが点灯します。ターンテーブルが回転し始め、サイズ切換ボタンで選んだサイズに合わせて、自動的にトーンアームがレコードの外周に移動して、演奏を始めます。レコード演奏が終わると自動的にトーンアームがアップし、固定台に戻り、レコードの回転が止まります。

**7** 音量ツマミでお好みの音量に調節します。

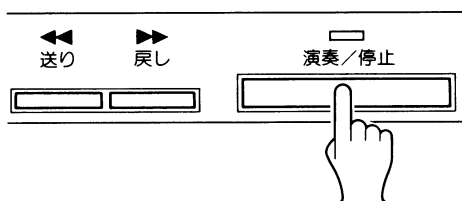
グラフィックイコライザースイッチを「入」にして、イコライザーツマミでお好みの音をつくってください。

ミキシングバランスツマミは、「入力」側にセット。

### ●演奏を途中で中止する場合

もう一度演奏/停止ボタンを押します。

針先がレコード面からはなれて、レコードの回転が止まり、演奏インジケータが消えて、トーンアームが固定台まで戻ります。

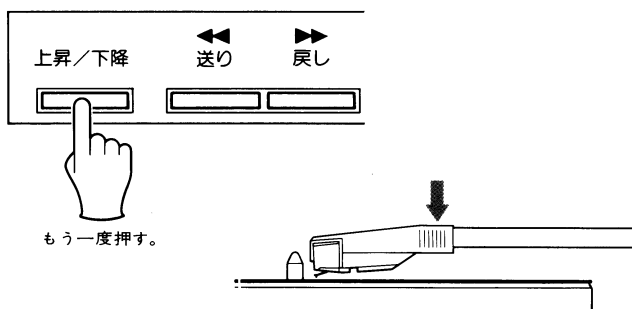
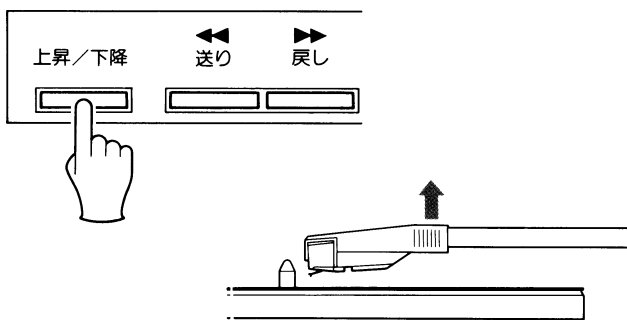


### ●演奏を一時的に止める場合

上昇/下降ボタンを押します。

針先がその位置でレコード面からはなれて演奏が中断されます。(レコードは回転したままです。)

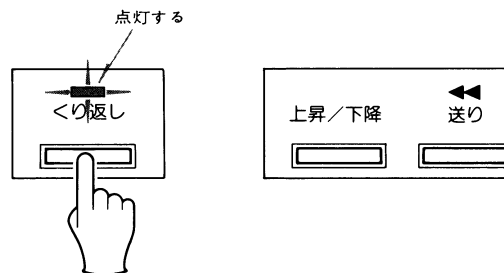
もう一度上昇/下降ボタンを押すとそこから演奏が始まります。



### ●くり返して演奏する場合

くり返しボタンを押します。

ボタン上のインジケータが点灯し、同じレコードをくり返し演奏します。



※くり返し演奏ができるのはEP(17cm)レコードとLP(30cm)レコードです。これ以外の大きさのレコードでくり返し演奏をすると、針先がレコードの途中へおりたり、レコード面以外におりたりして針先を痛める原因になります。

くり返し演奏を中止する際は、くり返しボタンをもう一度押します。

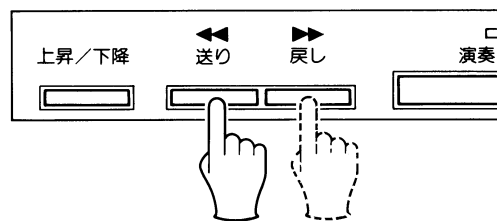
インジケータが消え、演奏が終わるとトーンアームは固定台に戻ります。

また、演奏/停止ボタンを押してもくり返し動作は解除され、トーンアームが固定台へ戻ります。

### ●レコードを途中から演奏する場合

送りボタンと戻しボタンを押して聞きたい曲の始めにトーンアームを動かします。

このとき、トーンアームがアーム固定台からはなれると、ターンテーブルは回転し始めます。



上昇/下降ボタンを押します。

針先がレコード面において演奏が始まります。

# 放送の受信のしかた

## ■放送の受信のしかた

●番号順に操作します。

FM放送がステレオ放送の場合にはFMステレオインジケータが自動的に点灯し、モノラル放送になると消えます。

放送を受信しますとシグナルインジケータが自動的に点灯します。

⑤ チューニングツマミを回して聴きたい放送局にダイヤル指針を合わせます。

④ AFC・FMミュートスイッチは、通常「入」にします。

※⑤ ロッドアンテナ

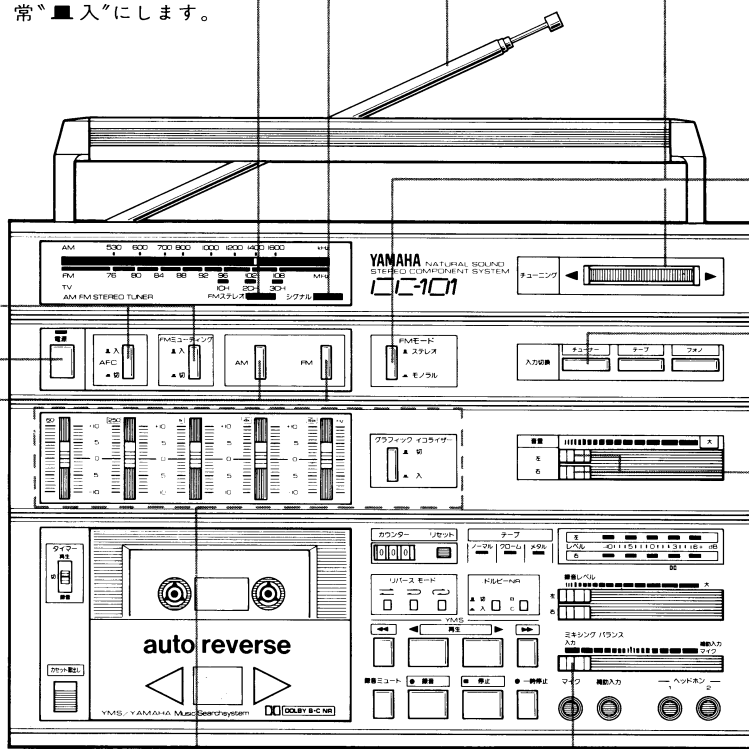
① 電源スイッチを押し、電源を入れます。

④ FMモードスイッチは通常「ステレオ」にしておきます。

② チューナーボタンを押します。

③ 聴きたいバンドのボタンを押します。  
AM放送→AM  
FM放送→FM  
テレビの1~3chの音声→FM

⑥ 音量ツマミでお好みの音量に調節します。



グラフィックイコライザースイッチを「入」にしてイコライザーツマミでお好みの音をつくってください。

ミキシングバランスツマミを「入力」側にセット。

### 注意

- AM放送受信帯によっては、プレーヤーのマイコンクロックノイズを拾うことがあります。このような時は、プレーヤーの電源を切ってAM放送を聴くか、プレーヤーを本体から少し離れたところにおいて使用してください。
- AM放送を聴きながら、プレーヤーのトーンアームを動作させたりしますと、プレーヤーのモーターノイズを受信してしまうことがあります。

### ※⑤ ロッドアンテナについて

- FM放送を受信する際は、ロッドアンテナを伸ばし最もよく聴こえる方向、長さ、角度に調節します。  
外部アンテナを接続したならばロッドアンテナはたたんでおいてください。
- AM放送を受信する際は、内蔵のフェライトバーアンテナが働きますのでロッドアンテナはたたんでおきます。  
内蔵アンテナには指向性がありますのでセットの向きを変えてみて、最もよく聴こえる方向を探してください。  
※ロッドアンテナを伸ばしたままで本体を持ち運びしないでください。アンテナを破損することがあります。

# テープ再生のしかた

## ■テープ再生のしかた

- 番号順に操作します。

電源スイッチを押し、電源を入れます。

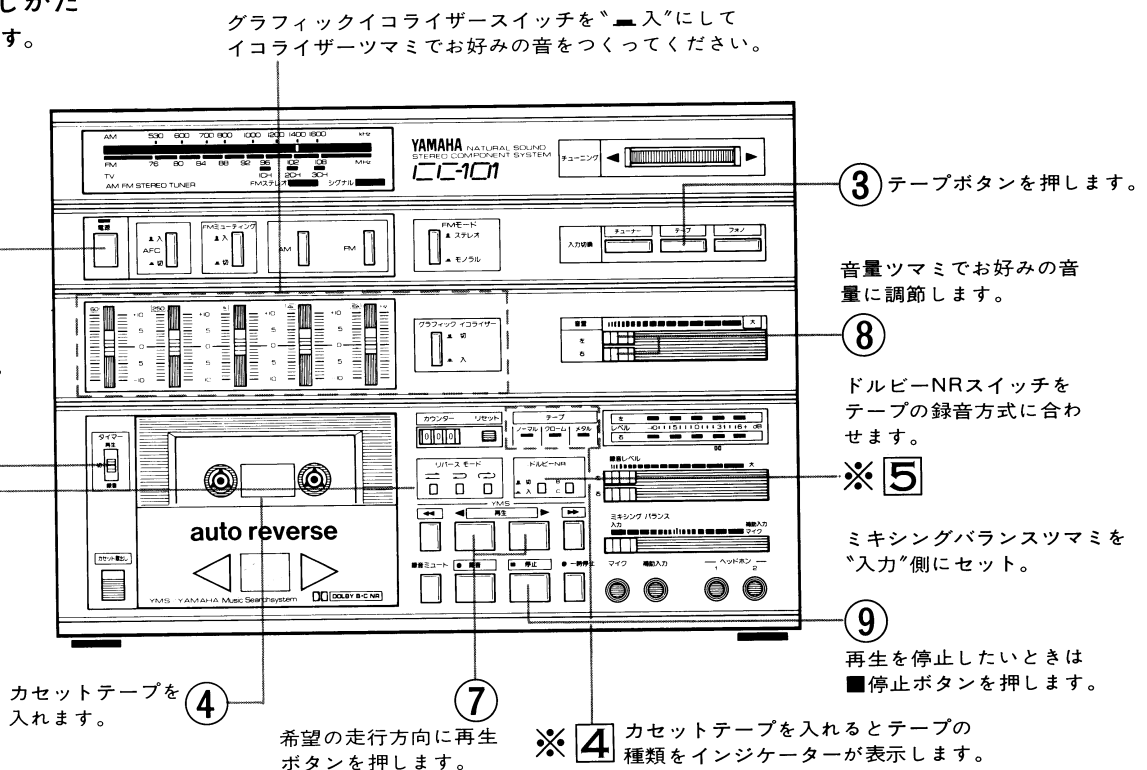
②

タイマースイッチを“切”にセットします。

①

※⑥

リバースモードスイッチを目的に応じてセットします。



グラフィックイコライザースイッチを“入”にしてイコライザーつまみでお好みの音をつくってください。

③ テープボタンを押します。

音量つまみでお好みの音量に調節します。

⑧

ドルビーNRスイッチをテープの録音方式に合わせます。

※⑤

ミキシングバランスつまみを“入力”側にセット。

⑨

再生を停止したいときは■停止ボタンを押します。

カセットテープを④に入れます。

④

希望の走行方向に再生ボタンを押します。

⑦

※④ カセットテープを入れるとテープの種類をインジケータが表示します。

※④

### ※④テープインジケータについて

- オートテープセレクト機能により、テープを装着するだけでそのテープの種類がインジケータで表示され、録音バイアス電流・イコライザ特性・テープ感度が自動的に切り換えられます。
- カセットテープが装着されていないときに、電源を入れますとメタルポジションが点灯します。
- カセットハーフにメタルテープ検出用の穴がない旧タイプのテープでは、オートテープセレクト機能は働きません。20ページの“カセットハーフの構造”を参照してください。

### ※⑤ドルビーNRスイッチについて

- ドルビーNRとは、小信号レベルでのテープのヒスノイズ(サーツという高域成分)、を効果的に減らすノイズリダクションシステムです。本機では、従来のドルビーB NRに加え、その2倍(デシベル表示)のノイズリダクション効果を持つドルビーC NRを採用。原音にせまる優れた音質で透明度の高い録音、再生ができます。左のスイッチでドルビーシステムを入、切し、右でドルビーのBタイプとCタイプを切り換えます。なお、ドルビーBで録音したテープはドルビーBで再生し、Cで録音したテープはCで再生します。その他のテープでは、“切”にしてください。

### ※⑥リバースモードスイッチについて

テープ走行モードを切り換えるボタンです。

#### ▷ マニュアルモード(片道)

フォワード方向(▶)または、リバース方向(◀)だけを録音・再生します。また、テープの最後まで巻き取られると、フルオートストップ機構が働き自動的に停止状態になります。

#### ▷ オートリバースモード(往復)

フォワード方向での録音・再生し、テープの最後まで巻き取られると、オートリバースして録音・再生を続けます。リバース方向での録音・再生が終了しテープが最後まで巻き取られると、フルオートストップ機構が働き自動的に停止状態になります。

#### ▷ オートリバースリピートモード(連続)

フォワード方向からリバース方向へ、さらにリバース方向からフォワード方向へと“■停止”ボタンを押すまで連続して再生します。ただし録音時は、リバース方向の録音が終わると自動的に停止状態になります。

### 注意

- 往復モード▷で再生または録音を行なうときはテープ走行をフォワードから行なってください。リバース走行からフォワード走行には往復しません。
- 録音時は、カセットテープの“誤消去防止ツメ”(リバース側)を確認してください。折り取られていると、フォワード方向の録音が終わると自動的に停止状態になります。

### ●フルオートストップ機構について

テープが終端(テープエンド)まで巻き取られますと、テープは自動的に停止するフルオートストップ機構が働き、大切なテープをいためることなく安心して、お使いいただけます。

#### リバースモードスイッチが のとき

録音・再生・早送り・巻き戻し・すべての状態でテープのテープエンドまで巻き取られると自動的に停止します。


#### リバースモードスイッチが のとき

リバース走向での録音・再生が終了するとテープエンド

で自動的に停止します。

※早送り・巻き戻ししますと常にテープエンドで自動的に停止します。

#### リバースモードスイッチが のとき

再生の場合は  停止ボタンを押すまで連続して再生します。

録音の場合は、リバース走行の録音が終了すると自動的に停止します。

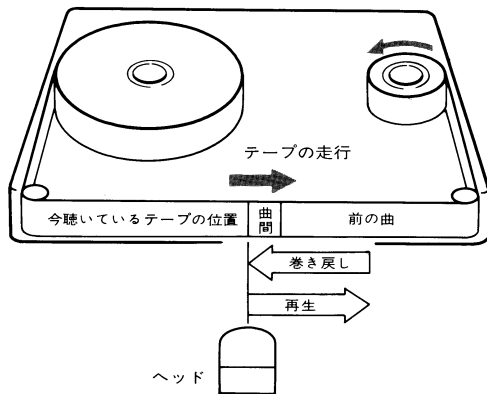
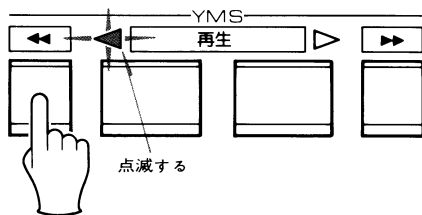
※早送り・巻き戻ししますと常にテープエンドで自動的に停止します。

## YMS (自動頭出し演奏機構について)

YMS(YAMAHA MUSIC SEARCH)は、市販のミュージックテープなどに録音されている曲の始めの部分を見つけだし、お聴きになりたい曲のはじめから自動的に演奏する機構です。

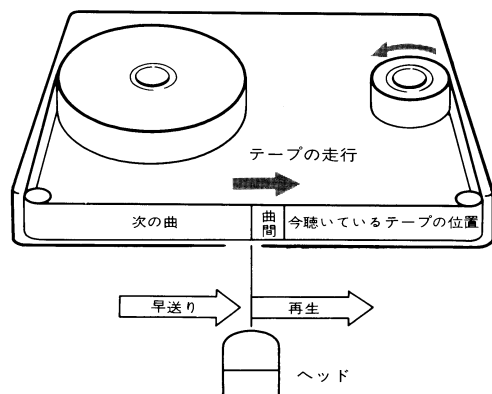
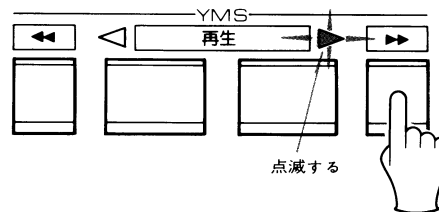
フォワード走行時(▶)、リバース走行時(◀)どちらでもYMS機構を働かせることができます。操作上の説明においては、再生(▶)、早送り(▶▶)、巻き戻し(◀◀)、というようにフォワード走行方向をもとに説明してあります。リバース走行時には、再生(◀)、早送り(◀◀)、巻き戻し(▶▶)と読み換えて操作してください。

### ●今聴いている曲をくり返して聴くとき



再生の状態で◀◀ボタンを押します。走行インジケータが点滅し、テープが巻き戻されます。今聴いている曲の頭までくると自動的に再生が始めます。何曲か前の曲を聴きたいときは、この操作をくり返し行ないます。

### ●今聴いている曲をとばして次の曲を聴くとき



再生の状態で▶▶ボタンを押します。走行インジケータが点滅し、テープが早送りされます。次の曲の頭までくると自動的に再生を始めます。何曲か後の曲を聴きたいときは、この操作をくり返し行ないます。

### 注意

- YMS動作中、音量ツマミの位置によっては、スピーカーから「キュルキュル」という音が少し聞こえることがあります。
  - YMS機構は、ミュージックテープの比較的長い無録音部分を見つけだすことによって動作します。つぎのような場合、YMSが正常に動作しないことがあります。故障ではありませんのでテープに応じてご使用ください。
- ① 会話・落語などで音声途切れているテープ。
  - ② 音楽でピアノシモの部分(音が非常に小さい部分)が長く続く曲や、曲中に無録音部分があるテープ。
  - ③ 曲全体が、録音レベルの低い(-20dB以下)テープ。
  - ④ 曲間が短い(約4秒以下)テープ。
  - ⑤ 曲間に大きな雑音とか、ハムが録音されているテープ。



# ミキシングのしかた

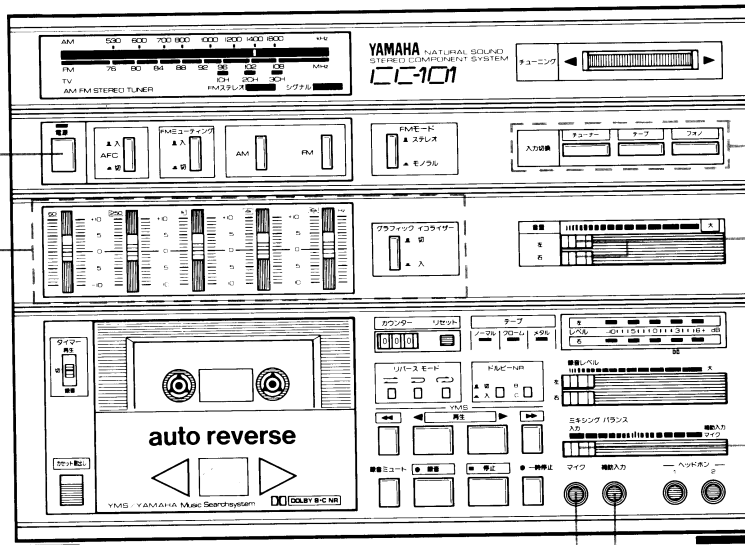
## ■ ミキシングのしかた

本機は、マイクのミキシングだけでなくポーターサウンドなどのキーボードとの同時ミキシングができます。

● 番号順に操作します。

電源スイッチを押し、電源を入れます。

①



ミキシングしたい入力のボタンを押し、演奏または、放送受信を行ないます。

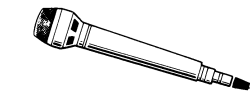
②

⑤ 音量ツマミでミキシングされた音をお好みの音量に調節します。

※④

ミキシングバランスツマミで入力とのミキシングのバランスを調節します。

グラフィックイコライザースイッチを“入”にしてイコライザーツマミでお好みの音をつくってください。

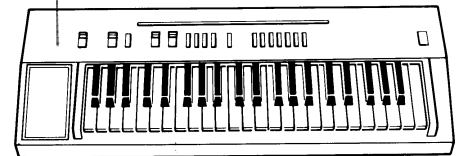


※③ マイクジャックにマイクロホンを接続します。

マイクロホンのインピーダンスは200Ω～10kΩであれば使用できます。

※③

補助入力ジャックにポーターサウンド(キーボードなど)を接続します。



ポーターサウンドのミキシングレベルは、ポーターサウンドの出力ボリュームで調整してください。

出力ボリュームを絞っても、音が歪んだり、小音量にならない機器を使われるときは、ミキシングレベルを合わせるための抵抗入りコードを使用して、接続してください。

### ※③ マイクジャックおよび補助入力ジャックについて

マイクロホンとポーターサウンドなどのキーボードと同時にミキシング再生・録音できます。

マイクジャックにマイクロホンを接続します。

補助入力ジャックにポーターサウンドなどのキーボードや比較的出力の大きな楽器を接続します。

マイク・補助入力ジャックからの音は、左右のチャンネルに同じようにモノラルでミキシングされます。

※マイクロホンを使用中に、補助入力ジャックに接続するとマイクロホンの音が小さくなります。

そのときは、ミキシングバランスツマミと補助入力ジャック側の出力ボリュームで調節してください。

※マイクロホンおよびポーターサウンドだけをご使用になるときは、入力切替ボタンの使用していないボタンを押してください。

※マイクロホンの音量をあまり大きくしたり、マイクロホンをスピーカーに向けるとハウリング(ピーという音が出ます)を起す場合がありますのでご注意ください。

※マイクロホンおよびポーターサウンドを使用しないときは、プラグを抜いておいてください。

### ※④ ミキシングバランスツマミの調整について

● 入力とマイク・補助入力とのミキシングバランスを調整します。

“マイク・補助入力”側へスライドさせますと、入力側の音が小さくなり、“入力”側へスライドさせますとマイク・補助入力の音が小さくなります。



マイク、補助入力側の音 ← 入力側の音が小さくなる。音が小さくなる。

● マイク・補助入力だけをご使用になるときは、ミキシングバランスツマミを右一杯にスライドさせてください。使用しないときは、左一杯にスライドさせてください。

# 録音のしかた

## 注意

- あなたがラジオ放送やレコードなどから録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上の権利者に無断で使用できません。
- 大切な録音をされる場合は、必ずあらかじめ試し録音で、間違いなく録音されることを確かめてください。
- 放送、レコード等を録音するときは、マイク・補助入力ジャックからプラグを抜いておいてください。
- 使用するテープの誤消去防止ツメが折れていると録音できません。(詳しくは20ページを参照)

## ■レコードの録音

●番号順に操作します

① タイマースイッチを“切”セットします

② 電源スイッチを押し、電源を入れます。

※録音には影響ありません。

③ 録音用テープを入れます。

※4 カウンターについて  
テープの走行につれて数字が変わります。テープの最初から録音するとき、録音を始める前にリセットボタンを押してカウンターの数字を“000”にします。録音内容とその数字の範囲をメモしておきますと、その数字を目安にして早送りや巻戻しを行ない、テープの聞きたい部分や次に録音を始める部分をさがすのに便利です。

※4 リセットボタンを押してカウンターを“000”にします。

⑤ ドルビー録音する場合は、“入”にしBタイプとCタイプを選択します。

⑥ リバースモードスイッチを目的に応じてセットします。

⑦ 一時停止ボタンを押します。(インジケータが点灯します)

⑧ フォノボタンを押します。

⑨ 録音ボタンと再生ボタン(走行方向側)を同時に押します。(インジケータが点灯します。)録音スタンバイ状態になります。

⑩ 録音レベルツマミを調整します。

⑪ レコードの途中から録音する場合  
送りボタンと戻しボタンを押して聞きたい曲の始めにトーンアームを動かします。上昇/下降ボタンを押すと、針先がレコード面において演奏が始まると同時に録音が始まります。

⑪ レコードの最初から録音する場合  
はじめに、トーンアームをアーム固定台にもどしておきます。演奏/停止ボタンを押すとトーンアームがレコードの外周に移動して演奏が始まると同時に録音が始まります。

お好みの音量にします。  
※録音には影響ありません。

ミキシングバランスツマミを“入力”にセット。

## ※4 カウンターについて

テープの走行につれて数字が変わります。テープの最初から録音するとき、録音を始める前にリセットボタンを押してカウンターの数字を“000”にします。録音内容とその数字

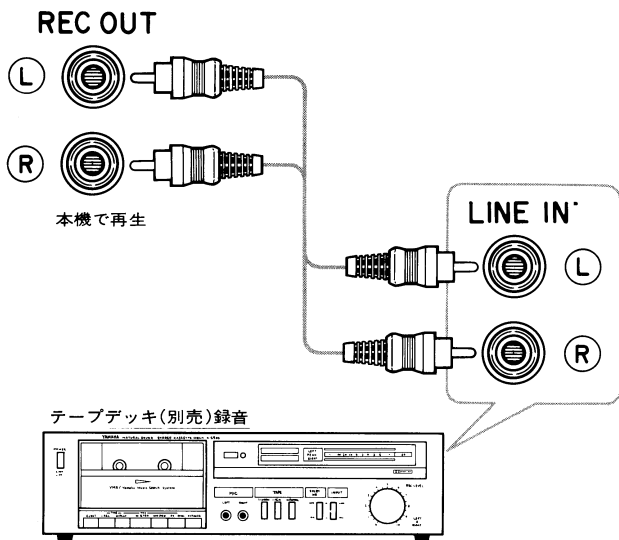
の範囲をメモしておきますと、その数字を目安にして早送りや巻戻しを行ない、テープの聞きたい部分や次に録音を始める部分をさがすのに便利です。



## ■テープコピー(複写録音)

録音補助端子(REC OUT)を使ってテープコピーすることができます。

- ①別売のテープデッキのLINE INを本機の録音補助端子(REC OUT)に接続します。
  - ②テープデッキを録音スタンバイ状態にします。
  - ③テープ再生のしかた(14ページ)にしたがって演奏します。
  - ④テープデッキの録音をスタートします。
- ※テープデッキから本機への録音はできません。



## ■ミキシング録音

- ①ミキシングのしかた(16ページ)にしたがってミキシングのバランスや音量を調整します。
- ②録音をスタートし、同時にミキシングを始めます。  
※テープとのミキシング録音する際は、「テープコピー」にしたがって録音をしてください。  
本機のテープから本機のテープへの録音はできません。  
※マイクミキシング中に音量を上げすぎたり、マイクをスピーカーに向けるとハウリングを起こして、「ピー」という音が録音されてしまいますのでご注意ください。

## ■留守録音と目覚まし再生のしかた

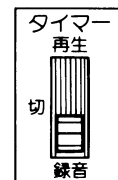
本機の電源コードを別売のオーディオタイマー(YAMAHA DT-2)や市販のオーディオタイマーに接続して、お望みの時間に録音(留守録音)・再生(目覚まし再生)ができる便利な機構を備えております。

聴きたいラジオ放送の始まる時間にセットしておけば留守をしていても録音することができます。

また、お好みのミュージックテープを起床時間にセットしておけば、さわやかなお目覚めとなります。

### ●留守録音

- ①エア・チェック(18ページ)にしたがってお好みの放送局に合わせて、録音レベルを調整します。
- ②タイマースイッチを「録音」側にセットします。



- ③タイマーを希望の時間に合わせます。

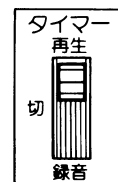
録音したい番組などが始まる時間の約1~3分前にセットしますと、よりよい録音ができます。

※タイマーの取扱いについては、お手持ちのタイマーの取扱説明書をお読みください。

- ④これでタイマーにセットした時間になると、電源が入り、録音がスタートします。

### ●目覚まし再生

- ①テープ再生(14ページ)にしたがって、お好みの音量に調整します。
- ②タイマースイッチを「再生」にセットします。



- ③タイマーを希望の時間にセットします。

- ④これでタイマーにセットした時間がくると、電源が入り、再生がスタートします。

●タイマー録音/タイマー再生のテープ走行方向は、電源OFF時の際のテープ走行方向で復帰します。  
特にタイマー録音の際は、テープ走行方向が違いますと以前に録音されたところを消して録音してしまいます。

# カセットテープについて

市販のカセットテープには多種多様の製品がありますが、その構造については規格が統一されており、各メーカーのものが共通に使用できます。

## ●カセットテープの録音時間による分類

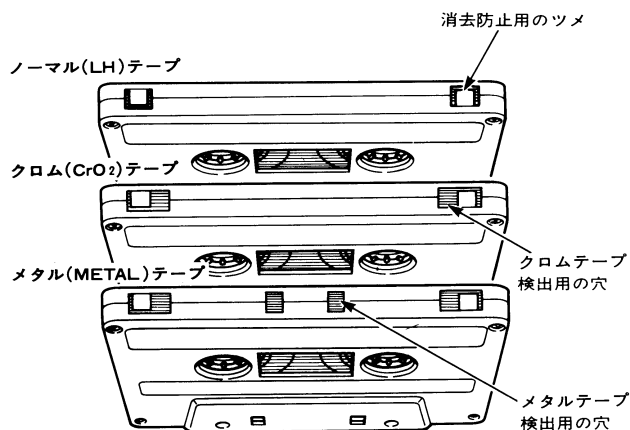
カセットテープの型名は、両面往復時間を“分”単位で表示してあります。

種類	録音再生時間		テープの長さ(m)
	片道(分)	往復(分)	
C-46(C-45)	23	46	68
C-60	30	60	90
C-90	45	90	135

※C-120テープは、テープが薄いため音質面でも音楽録音には適当ではありません。できるだけ上記のテープをご使用ください。

## ●カセットテープの材質による種類とカセットハーフの構造

カセットテープは磁性材質によって特性が異なります。そこで、そのテープに合ったバイアス量とイコライザー特性を選択する必要があります。本機はオートテープセレクト機能を内蔵していますので、カセットテープを装着するだけでそのテープに最適なバイアス電流とイコライザー特性、テープ感度が自動的に切り換わり、それぞれのテープの性能を発揮させることができます。テープの種類を検出には図のような検出用の穴を利用しています。



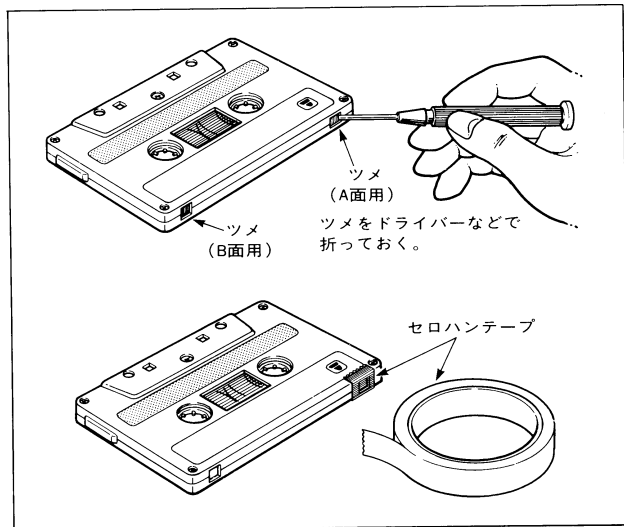
※カセットハーフに検出用の穴がない(旧タイプのメタルテープなど)テープではオートテープセレクトが働きません。

※旧タイプのメタルテープ(検出穴のないもの)を使用しますと、CrO<sub>2</sub>ポジションで録音・再生されます。テープによっては消去されない(前の音が消え残る)場合や音が歪む場合があります。

## ●録音内容の保存

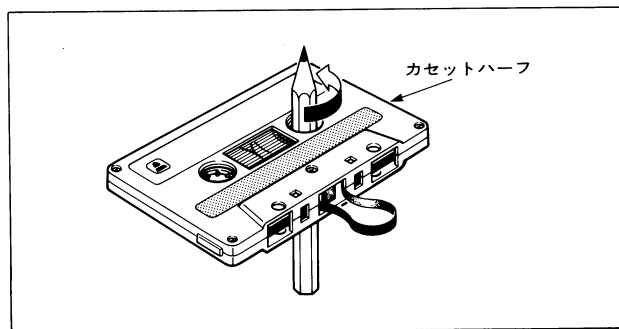
カセットハーフには、大切な録音をあやまって消さないように消去防止用の穴があります。録音後、この穴のツメをドライバーなどで取り去ると重ねて録音できませんから、録音内容をいつまでも保存することができます。

また、ツメを折ったテープに再び録音したい場合には、セロハンテープなどで穴をふさいでください。



## ●テープのたるみを直す

テープがとび出したり、たるんだままご使用になりますと、キャプスタンやピンチローラーにテープがからみついたりする原因となります。こんな場合には、カセットハーフのリール軸に鉛筆などを差込んで巻き取り、テープのたるみを直してからご使用ください。



## ●カセットテープの保管は

カセットケースに入れ、直射日光(高温)、湿気および磁気のあるところ(テレビやスピーカーの近く)を避けて保管してください。高温や湿気はテープをいため、磁気は録音内容を消してしまいます。

## ●著作権

あなたが本機で録音したものは個人で楽しむなどのほかは著作権上、権利者に無断で使用できません。

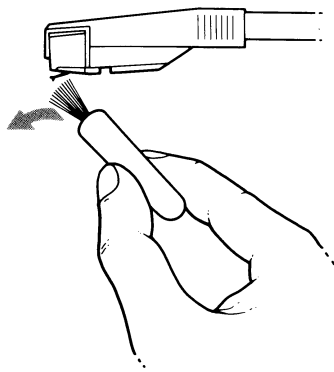
# お手入れのしかた

〔CC-101P〕

## ●針の清掃

レコード針にホコリやゴミがつきますと、雑音ができるばかりでなく、針先やレコードをいためる原因にもなります。市販の針先クリーナーブラシでホコリやゴミを矢印の方向へはきとります。

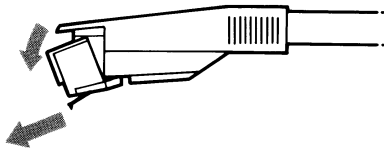
矢印と反対の方向や、横に(正面から見て左右に)はきとらないでください。針先をいためます。



## ●針交換のしかた

このプレーヤーに使用しているレコード針はダイヤ針です。レコード針の寿命は使用状態により変わりますが、約200～300時間ぐらいです。レコード針はなるべく早めに交換してください。レコード針をお求めになるには、N-7700とご指定のうえお買い上げの販売店に申しつけてください。

- レコード針を交換するとき、トーンアームに無理な力がかからないように注意してください。
- カートリッジはトーンアームと一体になっていますので、市販のカートリッジとは交換できません。



- ①レコード針の両側を指ではさみ図のように取りはずします。
- ②新しいレコード針の取り付けは逆の手順でおこないます。

〔CC-101C〕

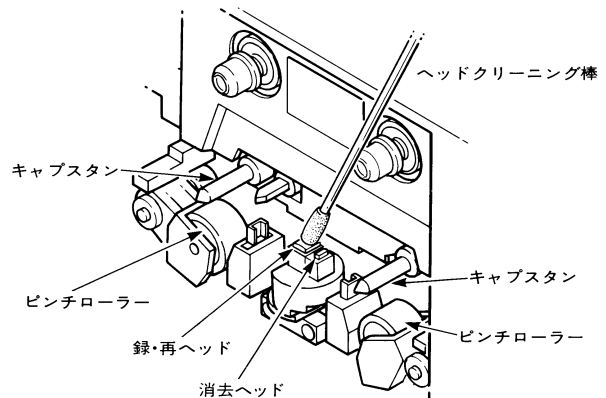
## ●ヘッド部の清掃

「音が小さくなった」、「きれいに録音できない」など、故障かなと思われるときのほとんどがヘッドとピンチローラーの汚れが原因です。約10時間(メタルテープ使用のときは数時間)使用しましたら、ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーなどのテープ走行面をきれいに清掃してください。

特にヘッドをきれいにしておくことが上手な録音をするために大切なことです。

## ●ヘッドの消磁

長時間使用して、高音が出なくなったり、雑音が多くなったときは、市販のヘッド消磁器でヘッドの消磁を行なってください。



# 参考仕様

## [CC-101C]

### ■FM部

受信周波数	76~108MHz
実用感度(30dB S/N)	2.5 $\mu$ V/300 $\Omega$ (13.8dBf)
S/N比(MONO)	65dB
歪率(MONO, 1kHz)	0.3%
イメージ妨害比	50dB
周波数特性	30Hz~10kHz $\pm$ 1.5dB

### ■AM部

受信周波数	522~1,620kHz
実用感度(20dB S/N)	250 $\mu$ V/m(バーアンテナ)
イメージ妨害比	50dB
S/N比	45dB

### ■カセットデッキ部

型式	4トラック2チャンネルステレオ
テープ速度	4.8cm/sec
ワウフラッター	0.05%(JIS, WRMS)
早送り、巻戻し時間	70秒(C-60使用時)
S/N比	
DOLBY OFF	51dB(METAL、EIAJ)
DOLBY B	58dB(METAL、EIAJ)
DOLBY C	68dB(METAL、EIAJ)
歪率	0.8%
クロストーク	50dB
周波数特性	
LH	20Hz~15kHz $\pm$ 3dB (EIAJ)
CrO <sub>2</sub>	20Hz~16kHz $\pm$ 3dB (EIAJ)
METAL	20Hz~17kHz $\pm$ 3dB (EIAJ)
ロータリーヘッド	
録音・再生ヘッド	ハードパーマロイヘッド
消去ヘッド	フェライトヘッド
モーター	DCモーター $\times$ 3

### ■オーディオ部

入力感度/インピーダンス	
PHONO	2.2mV/50k $\Omega$
KEYBOARD(MONO)	150mV/50k $\Omega$
MIC(MONO)	1.8mV/10k $\Omega$
SN比	
PHONO	72dB(IHF A)
TAPE, TUNER,	75dB
定格出力	13W+13W(DC時、4 $\Omega$ 、EIAJ10%) 15W+15W(AC時、4 $\Omega$ 、EIAJ10%)
周波数特性	30Hz~50kHz $\pm$ 3dB

### ■スピーカーシステム(CC-101S)

タイプ	2ウェイスピーカーバスレフ型
使用ユニット	
ウーファー	12cmコーン
ツイーター	3cm セラミック
入力インピーダンス	4 $\Omega$

## ■総合(CC-101C)

電源	AC100V, 50/60Hz DC15V 単一型(SUM-1) $\times$ 10 カーバッテリー、12~15V (市販カーバッテリーコード使用)
電池持続時間	録音時 約6時間使用可能 (音量Vol約1/3の位置で音を聴きながら録音した時) 再生時 約3時間使用可能 (音量Vol約2/3の位置で再生した時) ※JIS-SUM-1(NG)単一型電池使用時
	録音時 約4時間使用可能 (音量Vol約1/3の位置で音を聴きながら録音した時) 再生時 約1.5時間使用可能 (音量Vol約2/3の位置で再生した時) ※JIS-SUM-1(NS)単一型電池使用時
消費電力	36W
外型寸法(W $\times$ H $\times$ D)	675 $\times$ 246 $\times$ 207mm (ハンドル、つまみ等突起物含まず) センター部 340 $\times$ 246 $\times$ 203mm スピーカー部 165 $\times$ 246 $\times$ 207mm
重量	約12kg(電池含まず)
付属品	ACコード プレーヤースタンドCC-101ST (別梱包)

## [CC-101P]

### ■ターンテーブル部

型式	リニアトラッキング式 フルオートプレーヤー
モーター	DCモーター $\times$ 1 (ターンテーブル駆動用) DCモーター $\times$ 1 (トーンアーム駆動用)
駆動方式	ベルトドライブ
ワウ・フラッター	0.06%(W.RMS)
S/N比	60dB
ターンテーブル	28cmアルミダイカスト
■カートリッジ部	
型式	VM型固定式
出力電圧	2.5mV(1kHz、5cm/sec水平)
適正針圧	2.0g
交換針	N-7700

### ■トーンアーム部

型式	ダイナミックバランス リニアトラッキングアーム
有効長	147mm
トラッキングエラー角	$\pm$ 0.2°

## ■総合(CC-101P)

電源	AC100V, 50/60Hz
消費電力	6W
外型寸法(W $\times$ H $\times$ D)	340 $\times$ 107 $\times$ 350mm
重量	約4kg
付属品	EPアダプター $\times$ 1 シンクロ出力コード $\times$ 1

※仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

## 故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りの日本楽器サービスネットワーク宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

	症 状	原 因	処 置	
基本的なトラブル	電源スイッチを押しても電源が入らない	電源コードが接続されていない	電源コードを接続してください	
		電池が消耗している	電池を交換するか、AC電源を使用してください	
		電池の極性(+, -)が間違っている	電池を正しく入れ換えてください	
	入力切替ボタンを切り換えても再生音が全く出ない	スピーカーの接続が不完全	確実にスピーカーを接続してください	
		ミキシングバランスつまみが“マイク・補助入力”側になっている	ミキシングバランスつまみを“入力”側にセットしてください	
	左右のスピーカーあるいは左右のいずれかの音が出ない	スピーカーコードの接続が不完全	スピーカーコードの接続を確認してください	
		音量つまみの上下のつまみがずれている	音量つまみの上下のつまみを調整し、左右のスピーカーの音量バランスをとってください	
マイクロホンを使うと“ピー”という音が出る	ハウリングを起こしている	音量つまみで音量をさげ、マイクロホンをスピーカーから遠ざけてください		
低音のない不自然な再生音で音像が定位置しない	スピーカーの位相(+, -)が合っていない	位相(+, -)を合わせて接続しなおしてください		
レコード演奏のトラブル	針先をレコード面に降ろしても音が出ない。または小さい	入力切替セレクターがフォノになっていない	フォノボタンを押してください	
		プレーヤーの出カコードの接続不良	PHONO端子を確認してください	
	再生音が歪んでいて聴きにくい、または“チリ、チリ”“パチ、パチ”という音がし、特に高音域がひずむ	針先にホコリなどが付着している	針先を針先掃除用刷毛などできれいにしてください	
		針先が摩耗している	針を交換してください	
	レコード自体が痛んでいたり、ホコリやゴミがついている	レコードを新しいものと交換してください		
再生音がふるえたり、ハウリング(ポワーンという音)を起こして聴きにくい	プレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定で振動が伝わり共振している	しっかりした場所に移したり、スピーカーから遠ざけるなど設置場所を変えてください。(特に部屋のコーナーは避けてください)		
放送の受信時	FMステレオ放送になると雑音が多くなり聞きづらい	電波が弱い	FMモードスイッチを $\blacksquare$ モノラルの位置にしてください	
	AM放送の受信が不十分	電波が弱い	本機の向きを変えて最も良い方向にしてください	
	AM放送の受信のとき“ピー、チー、ジーン”などの音が入る	テレビなどのそばで同時使用している	テレビをセットから離してください	
テープ演奏のトラブル	テープが回らない(録音/再生)	テープが巻きむらを起こしている	テープを巻き直してください	
	録音できない	カセットテープのツメが折れている	ツメの部分でセロハンテープなどでカバーしてください	
	再生の音がひずむ	テープがいたんでいる	新品のテープと交換してください	
		雑音が多い	ヘッドが汚れている	ヘッドをクリーニングしてください
	ワウ(音のふるえ)が多い	ヘッドが帯磁している	ヘッドイレーザでヘッドの消磁をしてください	
		キャプスタン、ピンチローラーなどの汚れ	クリーニングしてください	
	再生音のバランスが悪い。(ノイズも多い)	テープがたるんでいる	テープを巻き直してください	
		ドルビーNRスイッチのセットが間違っている	ドルビーBで録音されたテープはBで、Cで録音されたテープはCで再生し、その他のテープは切にしてください	
	録音または再生の途中でストップあるいは反転してしまう	録音または再生の途中でストップあるいは反転してしまう	テープがゆるんでいたたり、飛び出している	鉛筆などでカセットハーフのリール軸をまわして、テープを張り直してください
		タイマー録音で録音できない(再生になる)	カセットテープの後部のツメが折れている	カセットテープを交換するか、ツメの部分でセロハンテープなどでカバーしてください
			自動頭出し[YMS]でテープが再生しない	テープの無録音部分のスペースが4秒以内になっている
		自動頭出し[YMS]操作のとき▷▷ボタンまたは◁◁ボタンを押してもすぐに再生状態になる	曲間に雑音などが録音されている	
録音がとぎれとぎれになっている				
録音や再生中に□停止ボタンを押してもテープが停止しない	録音レベルが低すぎる			
録音や再生中に□停止ボタンを押してもテープが停止しない	電池が消耗している	電池を交換するか、AC電源でご使用ください		



# サービスのご依頼について

●サービスのご依頼・お問合せは、お買い上げ店、またはYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお願い致します。

## ■保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## ■保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## ■保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

## ■補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(23ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。

## ■持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

\*品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

### お客様相談窓口

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーボールビル2F) TEL (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7(高松店内) TEL (0878) 51-7777 (0878) 22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 (日本楽器名古屋流通センター) TEL (052) 652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
広島電音サービスステーション	〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL (082) 874-3787
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
浜松電音サービスステーション	〒430 浜松市東伊場2-13-12 TEL (0534) 56-9211

### お預り品修理拠点

東京電音サービスデポ	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434-3100
大阪電音サービスデポ	〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
名古屋電音サービスデポ	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 (日本楽器名古屋流通センター) TEL (052) 652-2228
九州電音サービスデポ	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
北海道電音サービスデポ	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスデポ	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249

### 本 社

営業技術課電音サービスセンター	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL (0534) 65-1111
-----------------	---------------------------------------

## ■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)65-1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL(03)572-3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL(03)572-3131
横浜店	〒220 横浜市西区南幸2-15-13 TEL(045)311-1201
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館8.9F TEL(06)251-1111
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL(06)211-8331
神戸店	〒650 神戸市中央区元町通2-188 TEL(078)321-1191
高松店	〒760 高松市丸亀町8-7 TEL(0878)51-7777
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL(052)201-5141
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2151
小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL(093)531-4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL(011)512-6111
仙台支店	〒980 仙台市大町2丁目2番10号 TEL(0222)22-6141
広島支店	〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F TEL(082)221-4122
浜松支店	〒433 浜松市幸3-5-8 TEL(0534)74-3356
浜松店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL(0534)54-4077
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

住所及び電話番号は変更になる場合があります。

